

2 酒米新品種「杜氏の夢（仮称）」の品種特性

ねらいと成果

現在、県北部で栽培されている酒米品種「兵庫北錦」は、多収性などの評価は高いが、障害型冷害による不稔や登熟期の高温による乳白米の多発など、栽培面や品質面での安定性が懸念されている。また、醸造適性においては、心白がかなり大きく、高度精米に適さないため、吟醸酒の原料としては使いにくいなどの点が指摘されている。こうした問題点に対応するため、酒米試験地では、耐冷性が強く、登熟期の高温による品質の低下が少なく、かつ「兵庫北錦」よりも心白が小さく、高度精米もできる品種を目標に育成を始め、現地選抜の結果から、有望品種として「杜氏の夢」（兵系酒66号）を育成した。平成13年度に種苗登録に出願し、平成14年1月に内定公表された。

内容

「杜氏の夢」の品種特性

「杜氏の夢」は、生物工学研究所で「兵庫北錦」を母本に、「吟の精」を父本に交配し、F₁個体を薬培養し、以後、酒米試験地で選抜した品種である。極早生の中稈穂数型で、葉色はやや淡い。短芒が

少～中程度発生し、ふ色、ふ先色は黄白である。脱粒性は難である。耐倒伏性は中で、多肥栽培では倒伏しやすい。葉いもち圃場抵抗性は強く、穂発芽性は中である。耐冷性は「兵庫北錦」より強いが、「やや弱」である。収量性は高く、千粒重は27g程度で、心白の発現は多い。腹白米が多いが、乳白米は少なく、品質はやや優れる。タンパク質含量は少ない。

栽培上の留意点

耐冷性は「兵庫北錦」より強いが、やや不十分であるので、高冷地での栽培は避ける。葉色が淡いため多肥栽培となりやすいので、施肥は栽培暦を基準に行う。耐倒伏性が中程度なので多肥栽培は避ける。胴割米の発生を防ぐため、適期収穫に努めるとともに、急激な乾燥は避ける。精玄米として調製する粒厚は、2.0mmを目安とし、良質化を図る。

今後の方針

平成14年度に但馬地域で17ha規模の試作を行い、酒造メーカー、生産者、流通等の関係者の意向を確認するなど、「兵庫北錦」に替わる酒米品種として普及を検討する。

池上 勝（農業技セ・作物部・酒米試験地）

表1 生育特性

品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	耐倒 伏性	葉いもち 抵抗性	耐冷 性	穂発 芽性
杜氏の夢	7.26	9.1	85	18.8	366	中	強	やや弱	中
兵庫北錦	7.28	9.4	81	20.2	316	強	中	極弱	やや難

注) 平成8年～10年の豊岡市清冷寺の試作結果の平均値。移植期は5月13～14日、表2も同じ。

耐冷性は岩手県農業研究センターの調査による。

表2 収量、品質

品 種 名	収量 (kg/a)	千粒重 (g)	心白 多少 (%)	心白 大小	腹白 多少 (%)	乳白 多少 (%)	玄米タンパク質 含量 (%)	検査等級
杜氏の夢	56.0	27.8	62	小中	47	3	6.1	1(上)
兵庫北錦	51.5	30.3	65	大	38	25	6.2	1(下)

注) 玄米タンパク質含量は、玄米粉を近赤外分光法により推定。検査等級は大阪食糧事務所神戸事務所豊岡支所の調査による。